

非常に大きな税の影響のなかでも
収益増加、収益性高水準

	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	2025 年度第 1 四半期	前年同期比増減	2025 年度第 1 四半期	前年同期比増減
収益	7,256	+6.6%	10,048	+5.5%
経費	-3,991	+8.8%	-5,992	+7.2%
営業総利益	3,266	+4.1%	4,056	+3.0%
リスク関連費用	-413	+3.4%	-735	+12.9%
税引前純利益	2,900	+4.6%	3,399	+1.6%
純利益グループ帰属分	1,824	-4.2%	2,165	-9.2%
コスト比率	55.0%	+1.1 パーセント・ポイント	59.6%	+1.0 パーセント・ポイント

税引前純利益は増加

- アセット・ギャザリング部門と大口顧客部門の好業績に後押しされ、四半期の収益は過去最高で大幅に成長
- 高い収益性：コスト比率は抑制（例外的項目を除いた費用は前年同期比（第 1 四半期）3.2%増）、有形株主資本利益率は 15.9%
- リスク関連費用は安定
- 業績は法人税の追加課徴金が影響

CIB およびアセット・ギャザリング部門は好業績

- CIB 事業、資産運用事業、及び保険事業の業績は高水準、全事業の寄与による保険収益の増加、純資金流入（中長期）、過去最高水準の運用資産、それに CIB 事業の過去最高の業績を反映
- 年末の勢いは確認されていないが、フランスのローン組成は低水準であった 2024 年当初と比較して回復、消費者金融は自動車ローンの活動減少の影響により低下、国際的な信用活動は高水準

資本活動及び戦略的プロジェクト

- GAC Sofinco Leasing のジョイント・ベンチャーの設立
- アムンディと Victory Capital との間でパートナーシップを締結
- Banco BPM の出資比率が 19.8%に上昇
- インドスエズ・ウェルス・マネジメントが Banque Thaler の買収計画を発表

予想通り、ソルベンシーレシオに CRR3 が好影響

- クレディ・アグリコル S.A.の段階的導入 CET1 レシオは 12.1%、グループの段階的導入 CET1 レシオは 17.6%

エネルギー移行支援の継続

- 化石エネルギーからの撤退を継続、低炭素エネルギー源に再配分
- 家庭および企業のエネルギー移行を支援

ドミニク・ルフェーブル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「クレディ・アグリコルは毎四半期、社会、環境、農業、農業食品の大幅な転換を支援する活動を続けており、これらの転換はグループ全体の発展を堅実に牽引しています。当グループ顧客にサービスを提供している従業員一人一人の日々の尽力に感謝したい。」

フィリップ・ブラサック

クレディ・アグリコル S.A.の最高経営責任者

「当グループは今四半期、異例の課税にもかかわらず、大幅な増収が原動力となり、高業績を発表しました。クレディ・アグリコル S.A.は今四半期、過去最高収益と高い収益性を達成しました」

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A.に加え、クレディ・アグリコル S.A.の各事業体とクレディ・アグリコル S.A.の 62.8%を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。

クレディ・アグリコル・グループ、クレディ・アグリコル S.A.および事業部門の業績、損益計算書と収益率の両方について、すべての財務データが表示されています。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当四半期における当グループの営業活動は、すべての事業部門で引き続き順調に推移し、顧客獲得も高水準となりました。2025 年度第 1 四半期、当グループはリテール・バンキング部門で 55 万人の新規顧客を獲得しました。具体的には、前年同期比で、フランスのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 43 万 3,000 人増、（イタリアとポーランドの）国際リテールバンキング部門の新規顧客数が 11 万 7,000 人増となりました。

2025 年 3 月 31 日現在、リテール・バンキング部門では、オン・バランスシートの預金がフランス及びイタリアで前年同期比 1.3%増の総額 8,350 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 1.6%増、イタリアで 2.1%減）となりました。貸付残高は、フランス及びイタリアで前年同期比 1.0%増の総額 8,810 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 1.0%増、イタリアで 1.6%増）となりました。フランスの住宅ローン組成は、季節的な影響もあり、年末の勢いが確認されていないものの、2024 年当初の低水準から改善が続いており、2024 年度第 1 四半期比では地域銀行で 37%増、LCL で 46%増、また 2024 年度第 4 四半期比ではそれぞれ 4.3%減、34%減となりました。CA イタリアの住宅ローン組成は高水準で、2024 年度第 1 四半期と比べると 19%増加しました。損害保険のクロスセル・レート¹は、地域銀行では 44.2%（2024 年度第 1 四半期と比べて 0.8 パーセント・ポイント増）、LCL では 28.0%（同 0.2 パーセント・ポイント増）、CA イタリアでは 20.3%（同 1.0 パーセント・ポイント増）に上昇しました。

資産運用では、四半期の資金流入が、好調な中長期資産（ジョイント・ベンチャーを除く）（370 億ユーロ増）に支えられ、311 億ユーロ増と好調に推移しました。保険では、貯蓄・退職金の総資金流入額が当四半期に過去最高の 108 億ユーロ（前年同期比 27%増）に増加し、組成におけるユニット・リンク型商品の比率は 34.3%と高水準を維持しました。純資金流入額は 40 億ユーロ増のプラスとなり、ユーロ建て商品及びユニット・リンク型商品で増加しました。損害保険に関しては、業績は好調で、保険料の改定と契約ポートフォリオの件数増加（2025 年 3 月末時点の契約件数は 1,680 万件、前年同期比 5%増）が牽引しました。運用資産は当年度、Degroof Petercam の連結効果（2024 年度第 2 四半期に 690 億ユーロの運用資産を連結）などにより、3 事業全体で 8.7%増の 2 兆 8,780 億ユーロとなりました。資産運用事業で前年比 6.2%増の 2 兆 2,470 億ユーロ、生命保険事業で同 5.2%増の 3,520 億ユーロ、ウェルス・マネジメント事業（インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）で同 41.3%増の 2,780 億ユーロとなりました。

SFS 部門の事業は落ち込みました。CAPFM の消費者金融残高は 1,207 億ユーロに増加し、2024 年 3 月末と比べて 5.6%増となり、自動車ローンが残高全体の 54%²を占めました。新規ローンの組成は、欧州および中国の自動車市場に対する経済状況の悪影響などにより、2024 年 3 月末と比べて 6.4%減とやや減少しました。クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング（CAL&F）に関しては、ファイナンス・リースの組成残高が 2024 年 3 月比 5.7%増の 205 億ユーロとなりました。フランスにおける不動産の賃貸と再生可能エネルギーへの融資が特に大きく寄与しました。

大口顧客部門は、法人営業及び投資銀行業務で、当四半期で過去最高の収益を再び計上しました。資本市場および投資銀行業務は、高いボラティリティに支えられた全事業に牽引され、融資活動は商業業務の成長による恩恵を受けました。資産運用サービス事業のカस्टディー資産残高は 5 兆 4,670 億ユーロ、管理資産残高は 3 兆 5,750 億ユーロ（2024 年 3 月末と比べて、それぞれ 9%増と 4.7%増）と高水準となりましたが、これは前年同期比での好調な販売モメンタムとプラスの市場効果によるものでした。

¹ 自動車、住宅、健康、法務、すべての携帯電話または個人傷害保険

² CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

エネルギー移行支援の継続

当グループは引き続き、エネルギー移行を促進するための多数の融資及び投資を実施しています。クレディ・アグリコル・グループの低炭素エネルギー融資³のエクスポージャーは 2020 年末から 2024 年末までに 141%増加し、2024 年 12 月 31 日時点で融資額は 263 億ユーロとなりました。低炭素エネルギーへの投資⁴は、2024 年 12 月 31 日現在で総額 60 億ユーロとなりました。

同時に、クレディ・アグリコルはユニバーサル・バンクとして、すべての顧客のエネルギー移行を支援しています。これにより、2024 年 12 月 31 日現在、環境移行に関連する残高⁵は 1,117 億ユーロで、そのうち 867 億ユーロはエネルギー効率の高い建物、53 億ユーロはクリーン輸送およびクリーン・モビリティに充てられています。

さらに、当グループは炭素ベースのエネルギー融資からの出口戦略を継続しており、炭化水素抽出プロジェクト融資のエクスポージャー⁶が 2024 年末時点で 9 億 6,000 万ドル、2020 年比で 30%減であることを開示しました。2025 年末に石油採掘のエクスポージャーを 2020 年比 25%削減するという目標は 2024 年末時点で大幅に超過し、現在は 56%削減を目標としています。

³ クレディ・アグリコル・グループのすべての事業体の顧客が生産する再生可能エネルギーからなり、クレディ・アグリコル CIB の核エネルギー残高を含む低炭素エネルギー残高

⁴ CAA の残高（直接運用の上場投資、委託運用の上場投資及び直接運用の非上場投資）およびアムンディ エネルギー・トランジション

⁵ グループ内の持続可能な資産フレームワークにしたがった環境移行を目的とした、直接または EIB 経由のクレディ・アグリコル・グループの残高（2024 年 12 月 31 日現在）。2024 年 9 月 30 日の報告残高とは方法が異なり、同じ方法だと、2024 年 12 月 31 日の残高は 1,155 億ユーロ

⁶ 炭化水素抽出プロジェクト融資の直接エクスポージャー（輸出信用保険を除いた総エクスポージャー）

当グループの業績

2025 年度第 1 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、2024 年度第 1 四半期比 9.2%減の 21 億 6,500 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループの 2025 年度第 1 四半期および 2024 年度第 1 四半期の損益計算書

€m	Q1-25	Q1-24	Δ Q1/Q1
Revenues	10,048	9,525	+5.5%
Operating expenses	(5,992)	(5,589)	+7.2%
Gross operating income	4,056	3,936	+3.0%
Cost of risk	(735)	(651)	+12.9%
Equity-accounted entities	75	68	+9.5%
Net income on other assets	4	(7)	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	n.m.
Income before tax	3,399	3,347	+1.6%
Tax	(1,041)	(755)	+37.9%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	(0)	-	n.m.
Net income	2,358	2,592	(9.0%)
Non controlling interests	(193)	(208)	(7.2%)
Net income Group Share	2,165	2,384	(9.2%)
Cost/Income ratio (%)	59.6%	58.7%	+1.0 pp

2025 年度第 1 四半期の収益は大半の事業ラインの好業績が原動力となり、前年同期に比べて 5.5%増の 100 億 4,800 万ユーロとなりました。フランスのリテール・バンキング部門は収益を伸ばし、アセット・ギャザリング部門は好調な事業モメンタムと Degroof Petercam の統合から恩恵を受け、大口顧客部門はすべての事業ラインで高収益を上げ、専門金融サービス部門はプラスの価格効果から恩恵を受けており、国際リテール・バンキング部門の小幅減収を補いました。2025 年度第 1 四半期の営業費用は前年同期比 7.2%増の 59 億 9,200 万ユーロとなりました。全体として、クレディ・アグリコル・グループのコスト比率は 2025 年度第 1 四半期に 59.6%となり、1.0 パーセント・ポイント上昇しました。その結果、営業総利益は前年同期比 3.0%増加して 40 億 5,600 万ユーロとなりました。

信用リスク関連費用は、前年同期比 12.9%増の 7 億 3,500 万ユーロでした。当該費用は、正常債権（第 1 及び第 2 段階）に対する保守的な引当金の 4,700 万ユーロと、確認済みリスク（第 3 段階）関連費用の 6 億 7,700 万ユーロが含まれます。また、その他のリスク関連費用が 1,100 万ユーロありました。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。2025 年第 1 四半期の加重経済シナリオは、前四半期に使用したものと同じです。残高に対するリスク関連費用⁷はローリング 4 四半期ベースで 27 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 24 ベーシス・ポイントでした⁸。

当四半期の税引前利益は、2024 年第 1 四半期比で 1.6%増の 33 億 9,900 万ユーロでした。これには、7,500 万ユーロの持分法適用会社の寄与（+9.5%）、それに当四半期に 400 万ユーロ増となったその他の資産からの純利益が含まれます。税金費用は当期、37.9%増の 10 億 4,100 万ユーロとなり、税率は 8.3 パーセント・ポイント増の 31.3%となりました。この増加はクレディ・アグリコル・グループ・レベルでの 2 億 700 万ユーロの特別法人税に関連しており、2025 年度の見積税額 3 億 3,000 万ユーロ（2025 年度の業績を 2024 年度と同額と想定）に対応しています。非支配持分控除前の純利益は 9.0%減少して 23 億 5,800 万ユーロとなりました。非支配持分は 7.2%減少しました。

⁷ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

⁸ 年換算のリスク関連費用／残高（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

地域銀行

顧客獲得総数は 31 万 9,000 人増となりました。主に要求払預金を利用している顧客の割合は安定し、デジタル・ツールを利用する顧客の割合は引き続き増加しました。クレジットの市場シェア（クレジット全体）は 22.7%（2024 年 12 月末時点。出所：フランス銀行）で、2023 年 12 月に比べて 0.1 パーセント・ポイント上昇しました。ローン組成は、住宅ローンの 37%増と専門市場の 8%増を反映し、2024 年度第 1 四半期比で 19.4%増加しました。しかし、住宅ローンの組成は年末の活発な事業活動と比べると減速しています（2024 年度第 4 四半期比 4.8%減）。2025 年 1 月および 2 月の住宅ローンの平均貸出金利は 3.18%⁹で、2024 年第 4 四半期を 17 ベーシス・ポイント下回りました。対照的に、世界全体の貸付残高率は緩やかに改善しました（2024 年第 1 四半期比 11 ベーシス・ポイント増）。2025 年 3 月末の貸付残高は 6,490 億ユーロで、すべての市場で前年比 0.8%増となり、前四半期比では 0.2%増とわずかに増加しました。2025 年 3 月末時点の顧客資産は前年同期比 2.5%増の 9,157 億ユーロとなりました。この伸びの原動力は、6,032 億ユーロのオン・バランスシートの預金（前年同期比 1.3%増）と、生命保険への好調な資金流入の恩恵を受けて 3,126 億ユーロとなったオフ・バランスシートの預金（前年同期比 5%増）でした。要求払預金は 2024 年度第 4 四半期比 1.1%減とわずかながら減少しましたが、定期預金は安定しています。バランスシートの預金の市場シェアは前年比で増加し、20.1%となりました（出所：フランス銀行の 2024 年 12 月末のデータ。2023 年 12 月末比 0.2 パーセント・ポイント上昇）。2025 年 3 月末の損害保険のクロスセル・レート¹⁰は 44.2%となり、引き続き上昇しました（2024 年 3 月と比べて 0.8 パーセント・ポイント上昇）。支払手段では、カード枚数が前年同期比 1.8%増加し、プレミアムカードの割合が総数ベースで前年同期比 1.8 パーセント・ポイント増加しカード全体の 17%を占めました。

2025 年度第 1 四半期には、地域銀行の連結収益は前年同期比 1.3%増の 33 億 3,900 万ユーロで、2024 年度第 1 四半期の住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するベース効果（+4,100 万ユーロ）¹¹が特に影響しました。当該効果を除けば、収益は口座管理および支払手段などがけん引し（3.3%増）、仲介手数料の増加や安定的な手数料収入により、2024 年度第 1 四半期比 2.6%増加しました。

営業費用は、増加が抑制されました（1.8%増）。営業総利益は前年同期比で安定的に推移しました（ベース効果¹¹を除くと 5.2%増）。リスク関連費用は 2024 年度第 1 四半期比で 28.7%増加し、3 億 1,800 万ユーロとなりました。残高に対するリスク関連費用（過去 4 四半期）は 21 ベーシス・ポイントと引き続き抑制されています（2024 年度第 4 四半期比では 1 ベーシス・ポイント上昇）。

以上により、税引前純利益は 11.6%減の 5 億 2,200 万ユーロとなりました。地域銀行の連結純利益は、法人税の追加課徴金などの影響により、2024 年度第 1 四半期比で 21.2%減少し（ベース効果¹¹を除くと 15.3%減）、3 億 4,600 万ユーロになりました。

2025 年度第 1 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は、2024 年度第 1 四半期比 23%減（ベース効果¹¹を除くと 17%減）の 3 億 4,100 万ユーロでした。

⁹ 2025 年 1 月および 2 月の月間組成ローンの平均金利

¹⁰ 住宅保険、自動車保険、医療保険、弁護士保険、すべてのモバイルもしくはポータブル保険、または個人損害保険のクロスセル・レート

¹¹ 2024 年度第 1 四半期の住宅購入貯蓄のベース効果（住宅購入貯蓄引当金の戻入）により、営業収益は 4,100 万ユーロ増加し、純利益グループ帰属分は 3,000 万ユーロ増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2025 年度第 1 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2025 年 4 月 29 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. - 2025 年度第 1 四半期および 2024 年度第 1 四半期の損益計算書

En m€	T1-25	T1-24	Δ T1/T1
Revenues	7,256	6,806	+6.6%
Operating expenses	(3,991)	(3,669)	+8.8%
Gross operating income	3,266	3,137	+4.1%
Cost of risk	(413)	(400)	+3.4%
Equity-accounted entities	47	43	+9.2%
Net income on other assets	1	(6)	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	n.m.
Income before tax	2,900	2,773	+4.6%
Tax	(827)	(610)	+35.5%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	0	-	n.m.
Net income	2,073	2,163	(4.1%)
Non controlling interests	(249)	(259)	(3.9%)
Net income Group Share	1,824	1,903	(4.2%)
Earnings per share (€)	0.56	0.50	+11.4%
Cost/Income ratio (%)	55.0%	53.9%	+1.1 pp

2025 年度第 1 四半期には、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、2024 年度第 1 四半期から 4.2%減少し、18 億 2,400 万ユーロとなりました。2025 年度第 1 四半期の業績は、高収益、低水準に維持されたコスト比率、それにリスク関連コストの抑制によるもので、法人税の追加課徴金も影響しました。税引前純利益は高水準で、2024 年度第 1 四半期と比べて 4.6%増加しました。

2025 年度第 1 四半期の収益は過去最高の 72 億 5,600 万ユーロとなりました。2024 年度第 1 四半期と比べて急増しました (6.6%増)。この増収を牽引したのはアセット・ギャザリング部門の増収 (15%増) で、同部門の増収は Degroof Petercam の統合¹²を含め、すべての事業での好調な事業活動と残高の増加によるものでした。大口顧客部門の収益 (6.3%増) は、法人営業及び投資銀行業務が第 1 四半期も引き続き増収となったこと (クレディ・アグリコル CIB は過去最高収益) に加え、CACEIS の純利鞘及び手数料収入が改善し、すべての事業が好業績となったことに牽引されました。専門金融サービス部門の収益 (2.6%増) は、主に消費者金融及びモビリティ事業におけるプラスの価格効果の恩恵を受けました。フランスのリテール・バンキング部門の増収 (1.0%増) は手数料収入の増加によるものでした。国際リテール・バンキング部門の収益 (3.0%減) は 2024 年度第 1 四半期のエジプトでの例外的な為替の事業活動に関連するベース効果が影響しました。コーポレート・センター部門の収益は Banco BPM の持ち分の評価替えがプラスに影響し、4,000 万ユーロ増となりました。

2025 年度第 1 四半期の営業費用は事業発展のサポートを反映し、前年同期比 8.8%増の 39 億 9,100 万ユーロとなりました。前年同期比 3 億 2,200 万ユーロの費用増は 1 億 3,800 万ユーロの連結範囲変更の影響および統合費用¹³、7,200 万ユーロの国際財務報告解釈指針委員会 (IFRIC) の影響などを含みます。その他の費用は 1 億 1,300 万ユーロ (3.2%増) 増加しました。

¹² Degroof Petercam による連結範囲変更の収益への影響 : 2025 年第 1 四半期に+1 億 6,400 万ユーロ

¹³ 1 億 1,500 万ユーロの Degroof Petercam による連結範囲変更の影響を含む

以上により、2025 年第 1 四半期の**コスト比率**は 55.0%となり、2024 年第 1 四半期と比べて 1.1 パーセント・ポイント上昇しました。

2025 年度第 1 四半期の**営業総利益**は 32 億 6,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比 4.1%増と増加しました。

2025 年 3 月 31 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 26%）と法人向け（クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 45%）に重点が置かれています。不良債権比率は前四半期比ほぼ横ばいで、2.3%と低水準で推移しました。不良債権引当率¹⁴は前四半期比で 0.8 パーセント・ポイント上昇し、74.9%と高い水準になりました。クレディ・アグリコル S.A.の**貸倒引当金**は 94 億ユーロで、2024 年 12 月末から 2 億ユーロ減少しました。これらの貸倒引当金のうち、36.6%は正常債権に対するものでした（割合は前四半期比 0.8%上昇）。

リスク関連費用は純額で 4 億 1,300 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比で 3.4%増加しました。これは、不良債権（レベル 3）に関する引当金 4 億 1,100 万ユーロ（2024 年度第 1 四半期の引当金は 3 億 8,400 万ユーロ）などによるものです。正常債権（レベル 1 および 2）に対する引当は今四半期、2024 年度第 1 四半期の 1,200 万ユーロに対して、概ねゼロの繰入れとなりました。また、その他の項目に関する引当金（法的引当金）が 2024 年度第 1 四半期の 500 万ユーロに対して 200 万ユーロとなったことにも留意してください。事業ライン別では、当四半期の引当について、専門金融サービス部門が 60%（2024 年 3 月末は 55%）、LCL 部門が 22%（2024 年 3 月末は 30%）、国際リテール・バンキング部門が 16%（2024 年 3 月末は 20%）、コーポレート・センター部門が 5%（2024 年 3 月末は 3%）を占め、大口顧客部門は戻入れとなりました（2024 年 3 月末と同様）。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。2025 年第 1 四半期の加重経済シナリオは、前四半期に使用したものと同じです。2025 年第 1 四半期には、リスク関連費用／残高がローリング 4 四半期ベース¹⁵で 34 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベース¹⁶で 30 ベーシス・ポイントとなりました（2024 年度第 1 四半期比で 1 ベーシス・ポイント低下）。

2025 年度第 1 四半期の**持分法適用会社の寄与**は 4,700 万ユーロで、2024 年度第 1 四半期比で 9.2%増となりました。これは主に、消費者金融及びモビリティ事業での持分法適用会社の成長によるものでした。

よって、非継続事業と非支配持分控除前の**税引前利益**は 4.6%増加して 29 億ユーロとなりました。

実効税率は 29.0%で、2024 年度第 1 四半期比で 6.6 パーセント・ポイント上昇しました。税金費用は 8 億 2,700 万ユーロとなり、2025 年度の見積税額 2 億ユーロ（2025 年度の業績を 2024 年度と同額と想定）に対応した、2025 年度第 1 四半期の 1 億 2,300 万ユーロの法人税の追加課徴金の影響に関連して 35.5%増加しました。**非支配持分控除前の純利益**は 4.1%減少して 20 億 7,300 万ユーロとなりました。**非支配持分**は 2025 年度第 1 四半期には 3.9%減少して 2 億 4,900 万ユーロとなりました。

2025 年度第 1 四半期の**1 株当たり利益**は、前年同期と比べ 11.4%増加して、**0.56 ユーロ**に達しました。

RoTE¹⁷は、純利益グループ帰属分の年換算額¹⁸と線形化で年換算された IFRIC に沿った費用および法人税課徴金に基づき、年換算後のその他 Tier 1 債券のクーポン（無形資産を除いた株主資本利益のグループ帰属分）と償還 AT1 債への為替の影響を控除して算出され、資本で認識されている特定の変動の大きい項目（含み損益を含む）について修正再表示されており、2025 年度第 1 四半期には **15.9%**となり、2024 年度第 1 四半期と比べて 0.1 パーセント・ポイント低下しました。

¹⁴ ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率

¹⁵ ローリング 4 四半期のリスク関連費用／残高（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

¹⁶ 年換算のリスク関連費用／残高（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

¹⁷ RoTE（有形株主資本利益率）の計算の詳細については、添付資料を参照してください。

¹⁸ 年換算後の純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響と法人税の追加課徴金を線形化で年換算して各期間を修正することによって、純利益グループ帰属分の年換算（第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3）したものに相当します。

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2025 年第 1 四半期のアセット・ギャザリング (AG) 部門の運用資産は、当期の市場および為替の悪影響で一部相殺されたものの、アセット・マネジメント、保険、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインからの純資金流入などにより、前四半期と比べて 110 億ユーロ (0.4%) 増加し、合計 2 兆 8,780 億ユーロとなりました。前年同期比では、運用資産は 8.7%増加しました。

保険事業 (クレディ・アグリコル・アシュアランス) は非常に好調で、総保険料収入は、貯蓄・退職保険、損害保険、死亡・高度障害・債権者・団体保険の 3 分野すべてで増加し、2024 年度第 1 四半期と比べて 20.7%増加して 148 億ユーロとなりました。

貯蓄・退職保険部門では、2025 年度第 1 四半期の保険料収入は 2024 年度第 1 四半期比で 27%増の 108 億ユーロとなりました。同部門の活動を牽引したのはフランスでのユーロ支払いボーナス・キャンペーンの成功 (当四半期における商業イベントの効果全体) で、ユーロの総流入額を押し上げました。その結果、総資金流入額におけるユニット・リンク型商品の比率は前年同期比 4.7 パーセント・ポイント減の 34.3%¹⁹となりました。当四半期の純資金流入額は合計 40 億ユーロ増 (2024 年度第 4 四半期比 15 億ユーロ増) で、その内訳はユニット・リンク型商品からの純資金流入額が 20 億ユーロ増、ユーロ・ファンドからの純資金流入額が 19 億ユーロ増となりました。

運用資産 (貯蓄、退職、及び葬儀保険) は引き続き増加し、3,524 億ユーロ (前年同期比 175 億ユーロ増、5.2%増) となりました。運用資産残高の増加は、非常に高水準の四半期純資金流入とプラスの市場効果が原動力となりました。運用資産残高に占めるユニット・リンク型商品の比率は 30%で、2024 年 3 月末比 0.5 パーセント・ポイント上昇しました。

損害保険事業では、2025 年第 1 四半期の保険料収入は 26 億ユーロと、2024 年第 1 四半期と比べて 8%増加²⁰しました。保険料収入の増加は、料率改定と商品構成の変化の恩恵を受けた平均保険料の上昇による価格効果と、2025 年 3 月末時点で 1,680 万ユーロを越す保険ポートフォリオ²¹ (前年比 5%増) による数量効果によるものでした。最後に、2025 年 3 月末時点のコンバインドレシオは 93.2%²²となり、前年同期比で 0.6 パーセント・ポイント減と改善しました。

死亡・高度障害、債権者保険及び団体保険では、2025 年度第 1 四半期の保険料収入は 14 億ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期から 4%増加しました。前年同期比で事業活動が好調となったのは、農業・食料主権省との団体保険契約²³の発効により団体保険が当四半期に好調 (2024 年第 1 四半期比 24%増) であったためでした。債権者保険 (2%増) と個人死亡・障害保険 (3%増) の事業活動は底堅く推移しました。

資産運用 (アムンディ) では、アムンディの運用資産残高が 2025 年 3 月末時点で、前四半期比で 0.3%増、前年同期比で 6.2%増の 2 兆 2,470 億ユーロと過去最高になりました。これは、当四半期における為替の大幅な悪影響 (260 億ユーロ減) にもかかわらず、前年同期比で高水準の資金流入 (700 億ユーロ増) が寄与しました。当四半期の**資産運用 (アムンディ)** の純資金流入額は四半期ベースでは過去最高の中長期資産への資金流入²⁴ (370 億ユーロ増) が牽引し、311 億ユーロとなりました。この良好な結果は、戦略的分野 (ETF で 100 億ユーロ増、グループ外販売で 80 億ユーロ増、アジアで 80 億ユーロ増) における勢いの継続に現れています。機関投資家セグメントの純資金流入額は 224 億ユーロと引き続き営業活動が堅調で、英国の年金基金管理会社 People's Pension からの ESG 株式インデックスの運用委託の獲得 (210 億ユーロ) など中長期資産が牽引しました。一方、コーポレート・セグメントではトレジャリー商品で季節的な資金流出がありました。最後に、ジ

¹⁹ 国内基準による

²⁰ 損害保険料収入は、2024 年度第 2 四半期に CATU (ポーランドの損害保険事業体) が 2024 年 1 月 1 日に遡及して初めて連結されることに伴う連結範囲変更の影響がありました (連結範囲変更の影響を除くと保険料収入は前年同期比 7.7%増)。

²¹ 連結範囲: フランス内外の損害保険

²² 割引を含め、割引を除いた再保険料控除後のフランスの損害保険 (Pacifica) のコンバインドレシオは、総経過保険料に対する (保険金+営業費用+手数料収入)。割引の効果を除いたコンバインドレシオは 95.9% (前年比 0.4 パーセント・ポイント減)

²³ Agrica-Credit Agricole Assurances-Groupama コンソーシアムが 2025 年 1 月 1 日から従業員用の新しい医療制度を確保するために選択されました。

²⁴ ジョイント・ベンチャーを除く

ョイント・ベンチャーの純資金流入は 29 億ユーロとなりました。資金流入は韓国で好調で、中国でも安定したものの、インドで年度末関連および 2024 年度第 4 四半期からの国内市場調整関連の資金流出がありました。また、Victory Capital とのパートナーシップの成立を 2025 年 4 月 1 日に発表しました。

ウェルス・マネジメントでは、総運用資産（CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）は 2025 年 3 月末現在で 2,780 億ユーロとなり、2024 年 3 月末から 41.3%増加し、2024 年 12 月末と比べて安定的となりました。

インドスエズ・ウェルス・マネジメントの 3 月末時点の運用資産残高は 2,130 億ユーロ²⁵となり、2024 年 12 月末比で 0.7%減少しました。事業活動は好調で、純資金流入は 8 億ユーロとなりましたが、当四半期には 20 億ユーロのマイナスの市場及び為替効果がありました。2024 年 3 月末比では、運用資産は 800 億ユーロ増（60.2%増）となりました。これには、690 億ユーロの連結範囲変更の影響（2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合）が考慮されています。2025 年 4 月 4 日に発表されたスイスの Banque Thaler の買収計画についても注目されたい。

アセット・ギャザリング部門の業績

2025 年度第 1 四半期のアセット・ギャザリング部門の収益は、同部門の全事業ラインが牽引し、2024 年度第 1 四半期比 15.0%増の 20 億 5,800 万ユーロとなりました。費用は前年同期比 24.1%増の 9 億 3,600 万ユーロ、営業総利益は同 8.4%増の 11 億 2,300 万ユーロとなりました。その結果、2025 年度第 1 四半期のコスト比率は、2024 年度第 1 四半期と比べて 3.3 パーセント・ポイント上昇し、45.5%となりました。これにより、2025 年度第 1 四半期の税引前利益は 8.2%増の 11 億 3,900 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金を考慮したことで、5%減少しました。

2025 年度第 1 四半期、アセット・ギャザリング部門はクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 35%に寄与し、収益の 28%に寄与しました。

2025 年 3 月 31 日現在で同部門に配分された資本は 134 億ユーロで、この内訳は、保険が 108 億ユーロ、資産運用が 18 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 8 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 517 億ユーロで、この内訳は、保険が 243 億ユーロ、資産運用が 192 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 82 億ユーロでした。

保険事業の業績

2025 年度第 1 四半期の保険事業の収益は 7 億 2,700 万ユーロで、2024 年度第 1 四半期と比較して 0.7%増の微増となりました。貯蓄・退職金保険（残高の増加に関連）と損害保険が支えとなり、方法の影響に加えて債権者保険の利ざやの縮小を補いました。当四半期の保険事業の収益の内訳は、貯蓄・退職金保険および葬儀保険が 5 億 500 万ユーロ²⁶、個人保障が 1 億 300 万ユーロ²⁷、損害保険が 1 億 2,200 万ユーロでした²⁸。

2025 年 3 月末時点の契約上のサービスマージン（CSM）は合計で 258 億ユーロとなり、2024 年 12 月末に比べて 2%増加しました。

当四半期の帰属不能の費用は 9,600 万ユーロで、2024 年度第 1 四半期から 4.7%増加しました。その結果、営業総利益は 6 億 3,200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて安定しました（0.1%増）。税引前純利益は安定し、6 億 3,100 万ユーロとなりました。2024 年 9 月に Tier 1 債を Tier 2 債に交換した影響を除くと²⁹、2%増となりました。同じ理由により、非支配持分は、Tier 1 債の償還²⁹に関する会計項目の計上により、2024 年度第 1 四半期の 1,400 万ユーロに対してマイナス 300 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金を考慮したことで、2024 年度第 1 四半期に比べて 11.0%減少し、4 億 3,900 万ユーロとなりました。

保険事業は、2025 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業ライン（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 23%に寄与し、（コーポレート・センター部門を除いた）収益の 10%に寄与しています。

資産運用の業績

²⁵ 機関投資家顧客のカストディー資産を除く

²⁶ 契約上のサービスマージン（CSM）、損失項目およびリスク調整（RA）の配分額や再保険を除いた営業差異など

²⁷ CSM、損失項目および RA の配分額や再保険を除いた営業差異など

²⁸ 再保険費用控除後（業績を含む）

²⁹ Tier 1 債に関する費用は非支配持分として計上し、Tier 2 債に関する費用は収益から控除しています。

2025 年度第 1 四半期の収益は 8 億 9,200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比 11.0%増と 2 桁増になりました。相場上昇のなか、運用報酬・手数料収入が 2024 年度第 1 四半期比 7.7%増と引き続き増加しました。成功報酬・手数料収入も 2024 年度第 1 四半期比で 30.7%増加しました。アムンディ・テクノロジーの収益は持続的な成長を続き、2024 年度第 1 四半期比 46.2%増となりました。この増収は、2024 年 11 月に買収が完了したウェルス・テックの欧州大手、aixigo の統合により、既存事業の成長が加速し、堅調に推移した（21%増）ことによるものです。**営業費用**は 4 億 9,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 10.6%増加しました。これには、Alpha Associates と aixigo に関連する連結範囲変更の影響のほか、Victory Capital に関連する統合費用が含まれます。連結範囲変更の影響を除いた費用は前年同期比 6.3%増加しました。コスト比率は、Victory Capital³⁰の統合費用があったものの、0.2 パーセント・ポイント低下し、55.6%となりました。Victory Capital の統合費用を修正再表示すると、コスト比率は 54.8%となりました。**営業総利益**は 3 億 9,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 11.6%増加しました。アムンディのアジア合併事業の寄与を含む**持分法適用会社**の寄与は、2024 年度第 1 四半期比でわずかながら減少し、2,800 万ユーロとなりました。その結果、税引前利益は 4 億 1,900 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 9.3%増加しました。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金の影響を考慮したことで、2024 年度第 1 四半期に比べて 7.3%減少し、1 億 8,300 万ユーロとなりました。

ウェルス・マネジメントの業績³¹

2025 年第 1 四半期のウェルス・マネジメントの収益は、2024 年 6 月の Degroof Petercam³²の統合の影響が寄与し、2024 年度第 1 四半期比 66.4%増の 4 億 3,900 万ユーロとなりました。統合の影響を除くと、収益は好調な取引手数料および手数料収入により支えられ、純利鞘は当四半期に良好に推移しました。当四半期の**費用**は、Degroof Petercam の連結範囲変更の影響³²と統合費用 1,300 万ユーロの影響により、2024 年度第 1 四半期比 60.7%増の 3 億 4,400 万ユーロとなりました。これらの影響の修正再表示後の費用の伸びは 2024 年度第 1 四半期比で横ばいとなりました。その結果、2025 年度第 1 四半期の**コスト比率**は、2024 年度第 1 四半期と比べて 2.8 パーセント・ポイント低下し、78.4%となりました。統合費用を修正再表示すると、75.5%となりました。**営業総利益**は 9,500 万ユーロとなり、2024 年度第 1 半期と比べて大幅に増加しました（91.3%増）。**リスク関連費用**は 600 万ユーロと抑制されました。**純利益グループ帰属分**は 5,800 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比で大幅に増加しました（2.3 倍）。

ウェルス・マネジメントは、2025 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業ライン（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 3%に寄与し、（コーポレート・センター部門を除いた）収益の 6%に寄与しています。

2025 年 3 月 31 日現在、ウェルス・マネジメントに配分された資本は 8 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 82 億ユーロでした。

³⁰ Victory と aixigo に関連する統合費用は 2025 年度第 1 四半期で 700 万ユーロ、2024 年度第 4 四半期で 1,300 万ユーロ

³¹ インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲

³² Degroof Petercam の当四半期のデータはウェルス・マネジメントの業績に含まれています。収益は 1 億 6,400 万ユーロ、費用は 1 億 1,500 万ユーロ（Degroof Petercam が一部負担した統合費用を除く）

大口顧客部門の活動

2025 年度第 1 四半期には、法人営業及び投資銀行部門（CIB）の非常に好調な業績と資産運用サービス部門の活発な事業活動により、大口顧客部門の事業活動は良好でした。

法人営業及び投資銀行部門の 2025 年度第 1 四半期の収益は、2 つの事業ラインの成長が牽引し、2024 年度第 1 四半期比 7.3%増の 18 億 8,700 万ユーロと大幅に増加しました。資本市場及び投資銀行業務も、2024 年度第 1 四半期比 10.0%増の 10 億 1,700 万ユーロに収益を伸ばしました。こうした増収は、ボラティリティが高いなかでの資本市場業務全体での増収（2024 年度第 1 四半期比 5.9%増）、それに、ストラクチャード・エクイティ業務の高い伸びによる投資銀行業務の良好な事業活動（2024 年度第 1 四半期比 31.6%増）によるものでした。ファイナンス事業の収益も増加して 8 億 7,000 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 4.4%増加しました。主な原動力となったのは、グリーン・エネルギーや航空宇宙などでのアセット・ファイナンスやプロジェクト・ファイナンスや貿易および輸出ファイナンス業務を牽引役とする商業銀行事業の業績（2024 年度第 1 四半期比で 1.7%増）でした。ストラクチャード・ファイナンス事業も 2024 年度第 1 四半期と比べて 9.4%増の増収となりました。

ファイナンス事業はシンジケート・ローンにおける主導的地位を固めました（フランスで第 1 位³³、EMEA で第 2 位³³）。クレディ・アグリコル CIB は、債券発行における高い地位を再確認し（世界全体のすべてのユーロ建債で第 2 位³³）、ユーロ建てグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドで第 1 位³⁴となりました。2025 年度第 1 四半期の規制上の VaR の平均は 1,050 万ユーロで、ポジションと金融市場の変動を反映して、2024 年度第 4 四半期の 950 万ユーロからわずかながら増加しました。慎重なリスク管理を反映した水準で推移しました。

資産運用サービス事業に関しては、活発な商業活動と良好な市場環境が事業成長を後押しし、計画されていた ISB 顧客の離脱を補いました。

2025 年 3 月末時点のカストディー資産（AuC）は 2024 年 12 月末に比べて 3.3%増、2024 年 3 月末に比べて 9.0%増の 5 兆 4,670 億ユーロとなりました。管理資産も 2025 年 3 月末時点で、前四半期比 5.3%増、前年同期比 4.7%増の 3 兆 5,750 億ユーロとなりました。

大口顧客部門の業績

2025 年度第 1 四半期には、法人営業及び投資銀行部門ならびに資産運用サービス部門の好調な業績により、大口顧客部門の収益は 24 億 800 万ユーロと再び記録的な水準に達し、2024 年度第 1 四半期比で 6.3%増加しました。

営業費用は、IT 投資と事業ラインの開発により、前年同期比 4.9%増加しました。その結果、同部門の営業総利益は 10 億 4,800 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 8.2%増加しました。同部門のリスク関連費用は、2024 年度第 1 四半期の 3,300 万ユーロの戻入に対して、2,500 万ユーロの純戻入となりました。税引前利益は 10 億 7,800 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 7.2%増加しました。2025 年度第 1 四半期の税金費用は、法人税の追加課徴金を考慮したことで、3 億 500 万ユーロとなりました。最終的に、2025 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は 2024 年度第 1 四半期比で安定し（0.2%増）、合計 7 億 2,300 万ユーロとなりました。

同部門は、2025 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 38%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた収益の 33%に寄与しています。

2025 年 3 月 31 日現在、同部門に配分された資本は合計 135 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 1,417 億ユーロでした。

³³ Refinitiv LSEG

³⁴ Bloomberg（ユーロ建て）

法人営業及び投資銀行部門の業績

2025 年度第 1 四半期の法人営業及び投資銀行部門の収益は、2024 年度第 1 四半期比 7.3%増の 18 億 8,700 万ユーロとなり、過去最高を記録しました。当期は法人営業及び投資銀行部門にとって過去最高の四半期となりました。

営業費用は前年同期比 7.5%増の 9 億 9,200 万ユーロとなりましたが、これは主に IT 投資と事業活動の発展によるものでした。営業総利益は 2024 年度第 1 四半期比で 7.1%増と大幅に増加し、8 億 9,500 万ユーロの高水準になりました。コスト比率は 52.6%と安定しました（前四半期比 0.1 パーセント・ポイント増）。リスク関連費用は、新規の合成証券化取引にとりわけ関連し、2,400 万ユーロの純戻入れとなりました。最後に、2025 年度第 1 四半期の税引前利益は 9 億 1,900 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比で 5.3%増加しました。最終的に、2025 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、法人税の追加課徴金の影響で 0.5%減少し、6 億 4,800 万ユーロとなりました。

資産運用サービスの業績

資産運用サービスの 2025 年度第 1 四半期の収益は 5 億 2,200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期に比べて 2.7%増加しました。この増収は、純利鞘の拡大と事業活動や取引に関する手数料収入が原動力となりました。営業費用は 2024 年度第 1 四半期と比べて ISB の統合費用が減少したことで³⁵、前年同期比 1.6%減の 3 億 6,800 万ユーロとなりました。これとは別に、シナジー効果の拡大前に費用がやや増加しました。その結果、2025 年度第 1 四半期の営業総利益は 14.7%増加し 1 億 5,300 万ユーロとなりました。2025 年度第 1 四半期のコスト比率は、2024 年度第 1 四半期と比べて 3.1 パーセント・ポイント低下し、70.6%となりました。その結果、2025 年度第 1 四半期の税引前利益は 19.1%増加し 1 億 6,000 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分は法人税の追加課徴金を考慮しましたが、6%増加しました。

専門金融サービス部門の活動

クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティ（CAPFM）の商業組成は、2025 年度第 1 四半期に合計 110 億ユーロとなりました。2024 年度第 1 四半期に比べると、経済情勢が欧州および中国の自動車市場に悪影響を及ぼしたことで 6.4%減少しました。四半期の新規組成件数に占める自動車ローン³⁶の割合は 48.5%でした。組成の平均顧客向け金利は 2024 年度第 4 四半期から 3 ベーシス・ポイントわずかながら上昇しました。その結果、2025 年 3 月末時点の CAPFM の運用資産は 1,207 億ユーロとなり、2024 年 3 月末比 5.6%増となりました。全事業（自動車事業で 8.6%増³⁷、LCL および地方銀行で 4.4%増、その他の事業体で 3.0%増）が牽引しました。自動車事業は、当四半期に GAC Leasing を連結したことに加え、レンタカー事業の発展が寄与しました。最後に、2025 年 3 月末時点の連結残高は合計 687 億ユーロで、2024 年度第 1 四半期比で 0.8%増加しました。

クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング（CAL&F）の商業組成は、リースに関しては 2024 年度第 1 四半期比 3.0%増となりました。これを牽引したのは、フランスでの不動産リースと再生可能エネルギーへの融資でした。2025 年 3 月末時点のリース残高は、フランス国内と国外で前年比 5.7%増（フランス国内が 4.5%増、国外 10.6%増）の 205 億ユーロ（うちフランス国内が 161 億ユーロ、国外 44 億ユーロ）となりました。ファクタリングの商業組成は、2024 年度第 1 半期に比べて 5.1%減少しました。フランス国外では 2024 年度第 1 四半期に大型案件のあったドイツに関連するベース効果により 31.6%減少し、フランス国内では今四半期の大型契約により 16%増加しました。2025 年 3 月末のファクタリング残高は 2024 年 3 月末比で 14.4%増加し、ファクタリング収益は前年同期比 5.4%増加しました。

³⁵ 2025 年度第 1 四半期の ISB 統合費用は 900 万ユーロ（2024 年度第 1 四半期は 2,000 万ユーロ）

³⁶ CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

³⁷ CA オートバンクと自動車関連のジョイント・ベンチャー

専門金融サービス部門の業績

専門金融サービス部門の 2025 年度第 1 四半期の収益は 8 億 6,800 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比で 2.6%増加しました。費用は 4 億 7,400 万ユーロで、2024 年度第 1 四半期と比べて 4.4%増加しました。コスト比率は、2024 年度第 1 四半期と比べて 0.9 パーセント・ポイント上昇し、54.5%となりました。よって、営業総利益は 3 億 9,500 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 0.6%増加しました。リスク関連費用は 2 億 4,900 万ユーロとなり、2024 年度第 3 四半期と比べて 13.8%増加しました。持分法適用会社の業績は 2024 年度第 1 四半期に比べて 18.5%増の 3,600 万ユーロとなりました。2025 年第 1 四半期から非経常的項目を修正再表示すると、21.0%減の 1,200 万ユーロとなりました。同部門の税引前利益は 1 億 8,200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 10.6%減少しました。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金を含めると、2024 年度第 1 四半期に比べて 4.1%増加し、1 億 4,800 万ユーロとなりました。

同部門は、2025 年 3 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 8%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた収益の 12%に寄与しています。

2025 年 3 月 31 日現在、同部門に配分された資本は合計 75 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 790 億ユーロでした。

消費者金融及びモビリティの業績

2025 年度第 1 四半期の CAPFM の収益は前年同期比 2.0%増の 6 億 8,300 万ユーロとなりました。2025 年度第 1 四半期は、前年同期比 32 ベーシス・ポイント改善（前四半期比 9 ベーシス・ポイント改善）した組成マージンなどにより価格効果がプラスとなりました。費用は 3 億 7,000 万ユーロとなり、人件費と IT 費用により、低水準であった 2024 年度第 1 四半期と比べて 4.3%増加しました。その結果、営業総利益は 3 億 1,300 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて安定しました（0.5%減）。コスト比率は、2024 年度第 1 四半期と比べて 1.2 パーセント・ポイント上昇し、54.2%となりました。リスク関連費用は 2024 年度第 1 四半期比 13.0%増の 2 億 2,500 万ユーロとなりました。これにより、残高に対するリスク関連費用は海外子会社を中心に、2024 年度第 1 四半期比で 13 ベーシス・ポイント悪化し、130 ベーシス・ポイント³⁸となりました。2025 年 3 月末時点の不良債権比率は 4.5%となり、2024 年 12 月末から 0.2 パーセント・ポイント低下しましたが、不良債権引当率は 73.5%となり、2024 年 12 月末から 0.3 パーセント・ポイント上昇しました。持分法適用会社からの寄与は前年同期比 18.1%増となりました。2025 年第 1 四半期から 1,200 万ユーロの非経常的項目を修正再表示すると、持分法適用会社からの寄与は中国市場関連で前年同期比 19.3%減となりました。税引前利益は 1 億 2,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 14.3%減少しました。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金を含めると、前年同期比 7.5%増加し、1 億 600 万ユーロとなりました。

リースとファクタリングの実績

CAL&F の総収益は 1 億 8,500 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 4.8%増加しました。この増収は、設備リースとファクタリングによるものです。費用はシステムの発展に関連して 4.6%増の 1 億 400 万ユーロとなり、コスト比率は 2024 年度第 1 四半期と比べて 0.1 パーセント・ポイント改善し 56.0%となりました。営業総利益は 8,200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 5.0%増加しました。リスク関連費用は合計 2,400 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 21.5%増加しました。この増加はスモールビジネス市場と中小企業市場によるものでした。残高に対するリスク関連費用は、2024 年度第 1 四半期比で 3 ベーシス・ポイント上昇し、25 ベーシス・ポイント³⁸となりました。税引前利益は 5,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて安定しました（0.7%減）。純利益グループ帰属分はフランスの法人税の追加課徴金を含めると、前年同期比で 3.7%減少し、4,200 万ユーロとなりました。

³⁸ 過去 4 四半期の期首の平均残高に対する直近 4 四半期のリスク関連費用の割合

クレディ・アグリコル S.A. リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコルのリテール・バンキングは当四半期、フランスのローン組成が 2024 年度上半期に比べて増加を続けており、イタリアでも力強いモメンタムが継続しています。保険加入者数は伸びています。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

2025 年度第 1 四半期の活動は安定しており、不動産ローンは前四半期比で減速したものの、資金流入および無利息型の要求払い預金は前四半期に比べて安定しました。顧客獲得は大幅に伸び、当四半期の新規顧客は 67,000 人になりました。

自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、前年同期比で 0.2 パーセント・ポイント上昇し、2025 年 3 月末には 28.0% になりました。

ローン組成は前年同期比 32% 増の総額 67 億ユーロとなりました。2025 年度第 1 四半期は季節的な影響などにより、不動産ローン組成が減速しました（2024 年度第 1 四半期比 46% 増、2024 年度第 4 四半期比 34% 減）。住宅ローンの平均組成率は 3.18% で、2024 年度第 4 四半期から 6 ベーシス・ポイント低下し、2024 年度第 1 四半期比では 102 ベーシス・ポイント低下しました。住宅ローンの残高率は 2024 年度第 4 四半期比で 5 ベーシス・ポイント、2024 年度第 1 四半期比で 19 ベーシス・ポイント改善しました。法人市場（前年同期比 49% 増）とスモールビジネス市場（同 6.4% 増）では好調な勢いが続きましたが、厳しい経済環境のなか、消費者信用セグメント（同 10.3% 減）では減速しました。

2025 年 3 月末時点の貸出残高は 1,710 億ユーロで、前四半期比で安定し、前年同期比で 1.6% 増加しました（うち住宅ローンが 1.7% 増、専門家向け貸付が 1.1% 増、企業向け貸付が 2.0% 増）。2025 年 3 月末現在の顧客資産総額は、利付預金とオフ・バランスシートの資金が原動力となり、前年同期比 2.2% 増の 2,565 億ユーロとなりました。依然として不透明な環境のなか、顧客資産は前四半期に比べて 0.6% 増加し、うち定期預金は 0.9% 増加しました。オフ・バランスシートの預金は、すべてのセグメントでの前年同期比プラス（当四半期はマイナス）の市場効果と、生命保険事業でのプラスの純資金流入から恩恵を受けました。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2025 年度第 1 四半期、CA イタリアの総顧客獲得数は 53,000 人となりました。

CA イタリアの 2025 年 3 月末時点の貸出残高は 611 億ユーロ³⁹で、2024 年 3 月末比で 1.6% 増加しました。安定したイタリア市場⁴⁰において、増加を牽引したのはリテール市場（残高は 3.0% 増）と安定した企業セグメントでした。ローン残高率は、市場金利の動向に沿って、2024 年度第 4 四半期比で 34 ベーシス・ポイント低下しました。ローン組成は全市場における堅調な勢いに支えられ、2024 年度第 1 四半期に比べて 19.2% 増加しました。

2025 年 3 月末の顧客資産は総額 1,182 億ユーロで、2024 年 3 月末から 1.7% 増加しました。オン・バランスシートの預金は 2024 年 3 月末から 2.1% 減少し、そのコストも減少しました。最終的に、オフ・バランスシートの預金は前年同期比で 6.5% 増加し、純資金流入とプラスの市場効果から恩恵を受けました。

自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険及び傷害保険における CA イタリアのクロスセル・レートは 20.0% を超えて 20.3% となりました（2024 年度第 1 四半期と比べて 1.0 パーセント・ポイント上昇）。

³⁹ POCI 残高の控除後

⁴⁰ 出所は Abi Monthly Outlook (2025 年 4 月) : ローン全体で前年同月比 (3 月) 0.0% 増と安定的

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

イタリアを除く国際リテール・バンキングの 2025 年 3 月末時点の貸付残高は 74 億ユーロで、2024 年 3 月末時点と比較して、現在の為替レートで 5.8%増加しました（為替変動の影響を除くと 4.7%増）。顧客資産は 120 億ユーロ増加し、現在の為替レートで前年同期比 11.1%増となりました（為替変動の影響を除くと 11.5%増）。

特にポーランドでは、貸付残高は 2024 年 3 月末比で 3.6%増加しました（為替変動の影響を除くと 0.7%増）。この原動力となったのは、リテール・セグメントとオン・バランスシート預金で 17.0%増（為替変動の影響を除くと 13.8%増）となりました。ポーランドにおける今四半期のローン組成は 2024 年度第 1 四半期と比較して安定しました（現在の為替レートで 3.4%増、為替変動の影響を除くと 0.3%増）。また、ポーランドの顧客獲得総数は今四半期、6 万 4,000 人増となりました。

エジプトでは、すべての市場で商業活動が好調でした。貸付残高は 2024 年 3 月末から 2025 年 3 月末に 19.7%増加しました（為替変動の影響を除くと 27.8%増）。同期間のオン・バランスシートの預金は 5.4%増加し、為替変動の影響を除くと 12.5%増加しました。

流動性は依然として非常に高水準で、ポーランドとエジプトでは 2025 年 3 月 31 日現在、融資を上回る預金が 23 億ユーロあり、ウクライナを含めると 39 億ユーロに達します。

フランスのリテール・バンキングの業績

2025 年度第 1 四半期の LCL の収益は 9 億 6,300 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期に比べて増加しました（1.0%増）。手数料収入の増加（前年同期比（第 1 四半期）3.6%増）は、すべての事業活動（証券管理事業を除く）が牽引しましたが、なかでも保険（生命保険および非生命保険）の力強い勢いが主な原動力となりました。純利轄は前年同期比（第 1 四半期）1.7%低下しましたが、貸出利回りの上昇（残高の利回りが前年同期比 19 ベーシス・ポイント上昇、前四半期比 5 ベーシス・ポイント上昇）と資金コストの低下がマクロヘッジの寄与の低下を補ったことが寄与しました。

費用は 3.8%増の 6 億 2,500 万ユーロで、これは投資の加速（IT 費用および人件費）によるものです。コスト比率は 2024 年度第 1 四半期に比べて 1.8 パーセント・ポイント増加し、64.9%となりました。営業総利益は 3.9%減少し、3 億 3,800 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は 2024 年度第 1 四半期比で 22.9%減少し、9,200 万ユーロ（確認済みリスクに対する 9,500 万ユーロの引当と偶発債務に関する 300 万ユーロの回収を含む）となりました。これにより、残高に対するリスク関連費用は 20 ベーシス・ポイントで、専門家向け貸付市場に関しては依然高水準にあります。2025 年 3 月末時点の不良債権引当率は 63.0%となりました（2024 年 12 月末時点に比べて 0.4 パーセント・ポイント上昇）。2025 年 3 月末の不良債権比率は 2.0%となり、2024 年 12 月末並みとなりました。

税引前利益は 2 億 4,700 万ユーロと、2024 年度第 1 四半期比で 5.3%増加し、純利益グループ帰属分は法人税の影響により、同 25.6%減少しました。

同部門は最終的に、2025 年度第 1 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 7%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた収益の 13%に寄与しました。

2025 年 3 月 31 日時点で、当部門に配分された資本は合計 51 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 539 億ユーロでした。

国際リテール・バンキングの業績⁴¹

2025 年度第 1 四半期には、国際リテール・バンキング部門の収益は 10 億 2,500 万ユーロとなり、2024 年度第 4 四半期に比べて減少しました（現在の為替レートで 3.0%減少、為替変動の影響を除くと 0.7%減少）。営業費用は前四半期比 1.8%増（為替変動の影響を除くと 2.6%増）の 5 億 1,500 万ユーロに抑制されました。その結果、営業総利益は 5 億 1,100 万ユーロとなり、当期に前四半期比 7.5%減少しました（為替変動の影響を除くと 3.9%減）。リスク関連費用は 6,600 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 18.9%減少しました（為替変動の影響を除くと 19.0%減）。

2025 年度第 1 四半期の CA イタリア、CA エジプト、CA ポーランド、CA ウクライナの全体の純利益グループ帰属分は、4.3%減（為替変動の影響を除くと 0.4%減と安定的）の 2 億 4,600 万ユーロとなりました。

⁴¹2025 年 3 月 31 日時点で、この範囲には CA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれます。

2025 年 3 月 31 日現在、国際リテール・バンキング部門に配分された資本は 41 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は合計 434 億ユーロでした。

イタリアの業績

2025 年第 1 四半期のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は、2024 年度第 1 四半期と比べて安定し（0.3%増）、7 億 7,700 万ユーロとなりました。純利鞘は減少しましたが（2024 年度第 1 四半期比 5.8%減）、運用資産の手数料収入（同 11.6%増）が寄与した手数料収入（同 7.4%増）の増加が補いました。営業費用は 3 億 8,400 万ユーロと抑制され、2024 年度第 1 四半期に比べて 0.5%増と安定しました。

2025 年度第 1 四半期のリスク関連費用は 2024 年度第 1 四半期比 7.9%減の 5,600 万ユーロとなりました。これは確認済みリスクに対する引当にほぼ相当します。残高に対するリスク関連費用⁴²は、2024 年度第 4 四半期比で 1 ベーシス・ポイント上昇し、39 ベーシス・ポイントとなりました。不良債権比率は 2.8%と、2024 年度第 4 四半期比で改善し、不良債権引当率は 77.9%となりました（2024 年度第 4 四半期から 2.8 パーセント・ポイント上昇）。これにより、CA イタリアの純利益グループ帰属分は、2024 年度第 1 四半期に比べて安定し（0.8%減）、1 億 7,800 万ユーロとなりました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の業績

2025 年度第 1 四半期には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は 2 億 4,800 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期と比べて 12.2%減少しました（為替変動の影響を除くと 3.9%増）。ポーランドでの収益は、純利鞘の上昇により、2024 年度第 1 四半期比で 8.6%増加しました（為替変動の影響を除くと 5.3%増）。エジプトでの収益は、純利鞘の上昇による恩恵を受けましたが、2024 年度第 1 四半期の例外的な為替レートの動向に関連するベース効果により、2024 年度第 1 四半期比で 35.7%減少しました（為替変動の影響を除くと 13.2%減）。イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の営業費用は 1 億 3,100 万ユーロとなり、ポーランドでの人件費および税ならびにエジプトでの人件費およびインフレの影響により、2024 年度第 1 四半期と比べて 5.8%増加しました（為替変動の影響を除くと 9.4%増）。営業総利益は 1 億 1,700 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期比で 26.3%減少しました（為替変動の影響を除くと 15.3%増）。リスク関連費用は、2024 年度第 1 四半期の 2,100 万ユーロに対して、1,000 万ユーロと抑制されました。さらに、2025 年 3 月末時点で、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで 122%、エジプトで 144%と高水準にとどまっています。ウクライナでは、国内の不良債権引当率は引き続き慎重な水準（450%）となっています。全体では、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門は純利益グループ帰属分に 6,700 万ユーロ寄与し、現在の為替レートで 2024 年度第 1 四半期と比べて 12.4%減少し、為替変動の影響を除くと安定的でした（0.8%増）。

2025 年 3 月 31 日時点で、リテール・バンキング事業部門全体では、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の純利益グループ帰属分の 19%、コーポレート・センター部門を除く収益の 27%に寄与しました。

2025 年 3 月 31 日現在、同部門の資本は 92 億ユーロでした。また、リスク・ウェイト資産は合計 972 億ユーロとなりました。

⁴² ローリング 4 四半期ベース

コーポレート・センターの業績

2025 年度第 1 四半期のコーポレート・センター部門の純利益グループ帰属分はマイナス 1 億 200 万ユーロとなり、2024 年度第 1 四半期から 500 万ユーロ改善しました。コーポレート・センター部門のプラスの寄与は、「構造的」寄与（マイナス 5,500 万ユーロ）とその他の項目（マイナス 4,800 万ユーロ）に区別して分析することができます。

「構造的」部分の寄与（マイナス 5,500 万ユーロ）は 2024 年度第 1 四半期と比べて 5,200 万ユーロ増加し、その内訳は次の 3 事業に分けられます。

- 親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業と機能。
これらの事業と機能の寄与は 2025 年度第 1 四半期にマイナス 3 億 1,500 万ユーロとなり、前年同期比 2,000 万ユーロ減少しました。これは主に、今四半期に一括納付で IFRIC に基づき税務処理を行ったためです。なお、2024 年度は 2 四半期にわたって処理されていました。
- CACIF（未公開株式）、CA イモビリエ、CATE、BforBank（持分法適用）など、中核事業に含まれない事業ライン。2025 年度第 1 四半期の寄与は Banco BPM の株式の評価替えによるプラスの影響を含め、2 億 5,200 万ユーロで、前年同期比で 6,700 万ユーロ増加しました。
- グループ支援機能。当四半期の寄与は 900 万ユーロでした（2024 年度第 1 四半期比で 400 万ユーロ増加）。

「その他の項目」の寄与はマイナス 4,800 万ユーロで、ESTER/BOR のボラティリティ関連のマイナスの分散により、2024 年度第 1 四半期と比べて 4,700 万ユーロ低下しました。

2025 年 3 月 31 日現在、リスク・ウェイト資産は 351 億ユーロでした。

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループの支払能力は欧州のグローバルなシステム上重要な銀行のなかで最高水準にあります。

クレディ・アグリコル・グループの自己資本比率は規制要件を大きく上回っています。2025 年 3 月 31 日時点で、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の**普通株式等 Tier 1 レシオ** (CET1) は 17.6%で、規制要件を 780 ベーシス・ポイント上回っており、非常に余裕があります。当四半期における CET1 比率の変動は、(a) CRR3 の影響に係る 56 ベーシス・ポイント増、(b) 利益剰余金に係る 25 ベーシス・ポイント増、(c) 事業ラインの有機的成長に係る 17 ベーシス・ポイント減、それに (d) 方法上の影響、M&A およびその他の影響に係る 17 ベーシス・ポイント減の影響によるもので、直近の IFRS 第 9 号の段階的適用に係る 9 ベーシス・ポイント減とクレディ・アグリコル S.A.の株式取得に関連する 8 ベーシス・ポイント減を考慮しています。

クレディ・アグリコル S.A.は、クレディ・アグリコル・グループのコーポレート・センターとして、グループ内の法的連携体制と柔軟な資本循環から十分に利益を受けています。段階適用の資本比率 CET1 は 2025 年 3 月 31 日時点で 12.1%で、規制要件を 350 ベーシス・ポイント上回っており、余裕があります。当四半期における CET1 比率の変動は、(a) CRR3 の影響に係る 44 ベーシス・ポイント増、(b) 利益剰余金に係る 21 ベーシス・ポイント増、(c) 事業ラインの有機的成長に係る 9 ベーシス・ポイント減、それに (d) 方法上の影響、M&A およびその他の影響に係る 10 ベーシス・ポイント減の影響によるもので、直近の IFRS 第 9 号の段階的適用に係る 5 ベーシス・ポイント減を考慮しています。2025 年 3 月 31 日以降に完了した M&A 取引と 2025 年度第 2 四半期の規制免除の基準超過による見積りでの影響を含めると、CET1 比率は見積もりベースで 11.8%となります。

クレディ・アグリコル S.A.のリスク・ウェイト資産を事業ライン別に分析すると、(a) CRR3 の影響に関連する 129 億ユーロの減少、それに、CRR3 の影響を除いた、(b) リテール・バンキング部門で 2 億ユーロの減少、(c) アセット・ギャザリング部門で 14 億ユーロの増加（保険の持分法による会計処理額の増加に特に関連）、(d) 専門金融サービス部門で 19 億ユーロの増加、(e) 大口顧客部門で 8 億ユーロの減少、(f) コーポレート・センター部門で 1 億ユーロの増加、と複合的な影響がありました。

クレディ・アグリコル・グループでは、リスク・ウェイト資産は、CRR3 の影響で 182 億ユーロ減少し、リテール・バンキング部門では CRR3 の影響を除いて、13 億ユーロ増加しました。その他の事業ではクレディ・アグリコル S.A.と同様に推移しました。

クレディ・アグリコル・グループの財務構造

	Crédit Agricole Group			Crédit Agricole S.A.		
	31/03/25	31/12/24	Requirements 31/03/25	31/03/25	31/12/24	Requirements 31/03/25
Phased-in CET1 ratio ⁴³	17.6%	17.2%	9.8%	12.1%	11.7%	8.6%
Tier1 ratio ⁴³	19.0%	18.3%	11.7%	14.3%	13.4%	10.4%
Total capital ratio ⁴³	21.8%	20.9%	14.1%	18.4%	17.4%	12.8%
Risk-weighted assets (€bn)	641	653		405	415	
Leverage ratio	5.6%	5.5%	3.5%	4.0%	3.9%	3.0%
Leverage exposure (€bn)	2,173	2,186		1,434	1,446	
TLAC ratio (% RWA) ^{43,44}	28.5%	26.9%	22.32%			
TLAC ratio (% LRE) ⁴⁴	8.4%	8.0%	6.75%			
Subordinated MREL ratio (% RWA) ⁴³	28.5%	26.9%	22.57%			
Subordinated MREL ratio (% LRE)	8.4%	8.0%	6.25%			
Total MREL ratio (% RWA) ⁴³	34.0%	32.4%	26.33%			
Total MREL ratio (% LRE)	10.0%	9.7%	6.25%			
Distance to the distribution restriction trigger (€bn) ⁴⁵	46	43		14	12	

クレディ・アグリコル S.A.では、分配制限のトリガーまでの距離は **MDA トリガー**⁴⁵までの距離、すなわち 354 ベーシス・ポイント（2025 年 3 月 31 日時点の CET1 資本の 140 億ユーロ）です。クレディ・アグリコル S.A. は L-MDA（レバレッジ・レシオ・バッファー要件までの距離）要件また M-MDA（MREL 要件までの距離）の対象外です。

クレディ・アグリコル・グループでは、分配制限までの距離は 2025 年 3 月 31 日時点の **L-MDA トリガー**までの距離です。クレディ・アグリコル・グループは、L-MDA トリガーを 210 ベーシス・ポイント（Tier 1 資本で 460 億ユーロ）上回るバッファーとなりました。

クレディ・アグリコル・グループの **TLAC レシオ**および **MREL レシオ**は 2025 年 3 月 31 日時点で、要件を大きく上回っています⁴⁴。クレディ・アグリコル・グループは、**M-MDA トリガー**を 590 ベーシス・ポイント（CET1 資本で 380 億ユーロ）上回るバッファーとなりました。2025 年 3 月 31 日時点で、M-MDA トリガーまでの距離は、劣後 MREL 比率と対応要件との間の距離に相当します。クレディ・アグリコル・グループの 2025 年の目標は、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 26%以上に維持することです。

⁴³ 総合資本バッファー要件を含め、SREP 要件は 2025 年 3 月 31 日から適用。総合資本バッファー要件は、(a) クレディ・アグリコル・グループの場合は、2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー（2024 年 11 月 27 日に ACPR から受領した通知にしたがい、2026 年 1 月 1 日に 1.5%に引き上げ予定）、0.75%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー、それに 0.06%のシステムミック・リスク・バッファー、(b) クレディ・アグリコル S.A.については、2.5%の資本保全バッファー、0.58%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー、それに 0.09%のシステムミック・リスク・バッファー。

⁴⁴ クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則（CRR）第 72b 条 3 項が認めている、2025 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を引き続き放棄することを選択しました。

⁴⁵ 複合的な資本バッファー要件に準拠しない場合。クレディ・アグリコル S.A.の分配可能額は 2024 年 12 月 31 日時点で 429 億ユーロで、内訳は分配可能準備金が 296 億ユーロ、資本剰余金が 133 億ユーロでした。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

2024 年 12 月 31 日に当グループの流動性ポジションの表示（流動性準備金、流動性バランスシート、長期債務の内訳）が変更されました。これらの変更は、2024 ユニバーサル登録文書に記載されています。

多様でばらつきのある顧客預金は 2024 年 12 月に比べて、安定的に推移しました（2025 年 3 月末で 1 兆 1,480 億ユーロ）。

2025 年 3 月 31 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット⁴⁶後の時価で 4,870 億ユーロとなり、2024 年 12 月 31 日から 140 億ユーロ増加しました。

流動性準備金は、トレジャリー資産控除後の短期債務の 2 倍を超えています。流動性準備金の増加は、とりわけ以下の要因によるものでした：

- 証券ポートフォリオ（適格流動資産（HQLA）および非 HQLA）の 60 億ユーロ増
- セルフセキュリタイゼーションの 20 億ユーロ増を含め、すでに中央銀行に差し入れられ、担保が設定されていない担保が 50 億ユーロ増加
- 中央銀行預け金の 30 億ユーロ増

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取り組みを継続しています。ヘアーカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,440 億ユーロとなりました。

2025 年 3 月 31 日現在の当グループの流動性のバランスシートは 1 兆 6,910 億ユーロで、**安定的な使用資金に対する安定的な調達資金の超過額は 1,970 億ユーロ**で、2024 年 12 月末と比べて 200 億ユーロ増加しました。超過額は中期計画の目標である 1,100 億~1,300 億ユーロを大幅に上回っています。

長期債務は 2025 年 3 月 31 日時点で 3,150 億ユーロで、2024 年 12 月末に比べて増加しました。長期債務には、以下のものが含まれます：

- 890 億ユーロの担保付きシニア債（50 億ユーロ増）
- 1,620 億ユーロの優先シニア債（事業体による発行の増加で 30 億ユーロ増）
- 400 億ユーロの非優先シニア債（MREL/TLAC 適格債により 30 億ユーロ増）
- 240 億ユーロの Tier 2 債券（10 億ユーロ減）

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2025 年 3 月 31 日時点の平均 LCR レシオ（ローリング 12 か月ベースで算定）は、クレディ・アグリコル・グループが 139%（920 億ユーロの余剰に相当）、**クレディ・アグリコル S.A.が 144%**（890 億ユーロの余剰に相当）でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回りました。

加えて、**クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率（NSFR）は 100%を超え**、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合し、100%超という MTP 目標を上回っています。

⁴⁶ 2024 年 12 月から流動性準備金に含まれる証券は、中央銀行の経済的実態の評価をより反映するために、個別のストレス（従来はシステムミック・ストレス）を割り引いた上で評価されます。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

2025 年 3 月 31 日時点で、当グループの主要発行体は、中・長期債によって市場で 156 億ユーロ相当額⁴⁷を調達し、このうちの 82%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。

具体的には、クレディ・アグリコル S.A.を除いた当グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル・アシュアランスは 7 億 5,000 万ユーロのノンコール期間 10.75 年の RT1 永久債を発行しました。
- クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティは以下の発行を行いました。
 - クレディ・アグリコル・オートバンク (CAAB) を介して 5 億ユーロのユーロ中期債 (EMTN) の発行
 - Agos を介した 4 億 2,000 万ユーロの証券化
- クレディ・アグリコル・イタリアは総額 10 億ユーロの 1 件の担保付きシニア債を発行しました。
- クレディ・アグリコル・ネクスト・バンク (スイス) は、総額 2 億スイスフランの担保付きシニア債形式で 2 件のトランシェを発行し、そのうち 1 億スイスフランはグリーンボンド形式で発行しました。

2025 年 3 月 31 日に、クレディ・アグリコル S.A.は市場を通じて 112 億ユーロ相当の資金を調達しました^{48,49}。

当行は 112 億ユーロ相当額を調達し、3 月末時点で、このうち 47 億ユーロ相当額が非優先シニア債、14 億ユーロ相当額がティア 2 債券、13 億ユーロ相当額が優先シニア債、38 億ユーロ相当額が担保付きシニア債でした。資金調達は以下を含め、様々な形式と通貨で構成されています。

- 17 億 5,000 万ユーロ^{50,51}
- 35 億米ドル (34 億ユーロ相当)
- 8 億ポンド (10 億ユーロ相当)
- 943 億円 (6 億ユーロ相当)
- 4 億シンガポール・ドル (3 億ユーロ相当)
- 6 億豪ドル (4 億ユーロ相当)

クレディ・アグリコル S.A.は 3 月末時点で資金調達計画の 76%^{52,53}をユーロ以外の通貨で発行しています。

またクレディ・アグリコル S.A.は 2025 年 2 月 13 日に 15 億ユーロのノンコール期間 10 年の AT1 永久債を当初の利率 5.875%で発行し、2025 年 4 月 30 日には残高 1 億 300 万ポンドのポンド建て AT1 債 (XS1055037920) について、2025 年 6 月 28 日までは不適格で適用除外されている法改正に伴う早期償還を 2025 年 6 月 30 日に実施することを発表しました。

2025 年の MLT 市場資金調達プログラムは 200 億ユーロに設定され、優先シニア債または担保付きシニア債と非優先シニア債または Tier 2 債で偏りなく分けられました。

当該プログラムは 2025 年 3 月 31 日時点で以下の通り、56%完了しています。

- 担保付きシニア債で 38 億ユーロ
- 優先シニア債で 13 億ユーロ相当
- 非優先シニア債で 47 億ユーロ相当
- Tier 2 債で 14 億ユーロ相当

⁴⁷ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁴⁸ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁴⁹ AT1 発行を除く

⁵⁰ AT1 発行を除く

⁵¹ 担保付きシニア債の発行を除く

⁵² AT1 発行を除く

⁵³ 担保付きシニア債の発行を除く

付属資料 1 - クレディ・アグリコル・グループ：部門別 損益計算書

クレディ・アグリコル・グループ - 部門別実績(2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 1 四半期)

€m	Q1-25							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,352	963	1,048	2,049	868	2,408	(640)	10,048
Operating expenses	(2,530)	(625)	(535)	(936)	(474)	(1,360)	468	(5,992)
Gross operating income	822	338	513	1,113	395	1,047	(172)	4,056
Cost of risk	(319)	(92)	(67)	(11)	(249)	25	(22)	(735)
Equity-accounted entities	6	-	-	28	36	6	-	75
Net income on other assets	3	1	(0)	(0)	0	0	0	4
Income before tax	511	247	445	1,130	182	1,078	(194)	3,399
Tax	(170)	(112)	(137)	(351)	(12)	(305)	46	(1,041)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	0	-	-	-	(0)	(0)
Net income	341	135	308	779	170	773	(148)	2,358
Non controlling interests	0	(0)	(42)	(101)	(21)	(36)	7	(193)
Net income Group Share	341	135	266	679	148	738	(141)	2,165
€m	Q1-24							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,314	954	1,081	1,793	846	2,266	(728)	9,525
Operating expenses	(2,484)	(602)	(524)	(754)	(454)	(1,297)	527	(5,589)
Gross operating income	830	351	556	1,039	392	969	(201)	3,936
Cost of risk	(247)	(119)	(84)	(3)	(219)	33	(13)	(651)
Equity-accounted entities	5	-	-	29	30	4	-	68
Net income on other assets	2	2	(0)	(8)	(0)	0	(2)	(7)
Income before tax	589	234	472	1,066	203	1,006	(216)	3,347
Tax	(147)	(53)	(143)	(220)	(42)	(235)	85	(755)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	442	181	330	837	161	772	(131)	2,592
Non controlling interests	(0)	(0)	(51)	(112)	(19)	(34)	7	(208)
Net income Group Share	442	181	279	725	142	738	(123)	2,384

付属資料 2-クレディ・アグリコル S.A.部門別損益計算書

クレディ・アグリコル S.A. - 部門別実績(2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 1 四半期)

En m€	Q1-25						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	2,058	2,408	868	963	1,025	(67)	7,256
Operating expenses	(936)	(1,360)	(474)	(625)	(515)	(81)	(3,991)
Gross operating income	1,123	1,048	395	338	511	(148)	3,266
Cost of risk	(11)	25	(249)	(92)	(66)	(21)	(413)
Equity-accounted entities	28	6	36	-	-	(22)	47
Net income on other assets	(0)	0	0	1	(0)	0	1
Income before tax	1,139	1,078	182	247	444	(191)	2,900
Tax	(352)	(305)	(12)	(112)	(137)	92	(827)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	0	-	0
Net income	787	774	170	135	308	(99)	2,073
Non controlling interests	(107)	(50)	(21)	(6)	(62)	(3)	(249)
Net income Group Share	680	723	148	129	246	(102)	1,824
En m€	Q1-24						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,789	2,266	846	954	1,057	(107)	6,806
Operating expenses	(754)	(1,297)	(454)	(602)	(505)	(56)	(3,669)
Gross operating income	1,035	969	392	351	552	(163)	3,137
Cost of risk	(3)	33	(219)	(119)	(82)	(11)	(400)
Equity-accounted entities	29	4	30	-	-	(20)	43
Net income on other assets	(8)	0	(0)	2	(0)	-	(6)
Income before tax	1,053	1,006	203	234	470	(194)	2,773
Tax	(220)	(235)	(42)	(53)	(142)	82	(610)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	834	772	161	181	328	(112)	2,163
Non controlling interests	(117)	(50)	(19)	(8)	(71)	5	(259)
Net income Group Share	716	722	142	173	257	(107)	1,903

付属資料 3 - 1 株当たりのデータ

クレディ・アグリコル S.A. - 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び ROTE

(€m)		Q1-2025	Q1-2024
Net income Group share		1,824	1,903
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(129)	(138)
- Foreign exchange impact on reimbursed AT1		-	(247)
NIGS attributable to ordinary shares	[A]	1,695	1,518
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,025	3,018
Net earnings per share	[A]/[B]	0.56 €	0.50 €

(€m)		31/03/2025	31/03/2024
Shareholder's equity Group share		77,378	72,429
- AT1 issuances		(8,726)	(7,184)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		1,222	1,021
- Payout assumption on annual results*		(3,327)	(3,181)
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]	66,546	63,086
- Goodwill & intangibles** - Group share		(17,764)	(17,280)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]	48,783	45,807
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,025	3,026
NBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	22.0 €	20.9 €
+ Dividend to pay (€)	[H]	1.10 €	1.05 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	16.1 €	15.1 €
TNBV per sh., before deduct. of divid. to pay (€)	[G]+[H]	17.2 €	16.2 €

* dividend proposed to the Board meeting to be paid

** including goodwill in the equity-accounted entities

(€m)		Q1-25	Q1-24
Net income Group share	[K]	1,824	1,903
Impairment of intangible assets	[L]	0	0
Additional corporate tax	[LL]	-123	-
IFRIC	[M]	-173	-110
NIGS annualised (1)	[N]	8,111	7,944
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, foreign exchange impact, annualised	[O]	-515	-799
Result adjusted	[P] = [N]+[O]	7,596	7,145
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg *** (2)	[J]	47,752	44,671
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]	15.9%	16.0%

*** 当期事業の想定配当を含みます。

(1) ROTE は、年率換算した純利益グループ帰属分と当年度にわたって線形化した IFRIC コストに基づいて計算しています。

(2) 2024 年 12 月 31 日から 2025 年 3 月 21 日までに算出され、当期の想定配当と合わせて修正・再表示された、普通株式に帰属する再評価前の NTBV の平均 ([E]行)。

代替的業績指標⁵⁴

NBV（純資産額）（再評価されない）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019 年第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

要注意債権はデフォルト状態の債権です。融資先は、次の 2 つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸付金総額で除して算出されます。

減損（または不良）債権比率

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

⁵⁴ APM は、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、純利益グループ帰属分や RoTE などの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各 APM 指標は、その定義において会計データとマッチングされます。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算（第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3）し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの 2025 年度第 1 四半期の財務情報は、本プレゼンテーション、添付の付属資料、プレスリリースから構成されています。これらは、<https://www.credit-agricole.com/finance/publications-financieres> で入手可能です。

本プレゼンテーションは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980（第 1 章第 1 条 d）の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準及び比較可能性

2025 年 3 月 31 日に終了した 3 か月間の数値は、欧州連合で採択され、同日に適用可能な IFRS 及び現在施行されている規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

注記：クレディ・アグリコル S.A. 及びクレディ・アグリコル・グループの連結範囲には、AMF（フランスの金融市場庁）に提出されたクレディ・アグリコル S.A. 2024 ユニバーサル登録文書と A.01 改訂版（クレディ・アグリコル・グループに関するすべての規制情報を含む）以降、重要な変更はありません。

表及び分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

その他の情報

クレディ・アグリコル S.A.の複合株主総会は 2025 年 5 月 14 日にパリで開催されます。

クレディ・アグリコル S.A.の 2024 年決算時に発表された通り、取締役会は一株当たり 1.10 ユーロの現金配当を株主総会に提案する予定です。

2025 年 5 月 26 日：配当落ち日

2025 年 5 月 27 日：基準日

2025 年 5 月 28 日：配当金支払

決算スケジュール

2025 年 5 月 14 日	総会
2025 年 7 月 31 日	2025 年第 2 四半期及び上半期の決算発表
2025 年 10 月 30 日	2025 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関投資家	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+ 33 800 000 777 (フリーダイヤル - フランスのみ)	relation@actionnaires.credit-agricole.com

セシル・ムートン + 33 1 57 72 86 79 cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr

株式 IR 担当：

ジャン=ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asseraf@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr

債券投資家及び格付機関担当：

グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
フローレンス・クインティン・デ・ケルカディオ	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr
ユーリー・ロマノフ	+ 33 1 43 23 86 84	yury.romanov@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com - www.creditagricole.info をご覧ください。

